



第1編 基本構想

第1章 将来都市像

第2章 将来の人口と出生率の目標

第3章 将来都市像を実現するための分野別の基本目標

第4章 都市構造と土地利用

第1章 将来都市像

子どもたちの 夢と希望があふれるまち 御前崎

人と人々が支え合い、海と緑に囲まれた自然豊かな御前崎市では、多くの世代がまちづくりに関わることで、御前崎市の素晴らしい自然と文化は次世代へと引き継がれていきます。

子どもからお年寄りまでみんなが手を取り合って、誰もが安心して住みやすいまち。
私たち大人は子どもたちに御前崎市をずっと好きでいてほしいと願っています。
そのためには、子どもたちが将来の夢を描き、希望を抱けることが大切です。
あふれ出る子どもたちの夢や希望は、世代を超えてまちづくりの力になります。

歳を重ねても親から見れば子どもはいつまでも子どもであり、大人たちの背中を見て育つ子どもたちの笑顔は、輝かしい未来へとつながります。

私たち大人がその義務と責任をしっかりと果たすことで、「自律」した御前崎市を市民・地域・行政が連携してつくります。

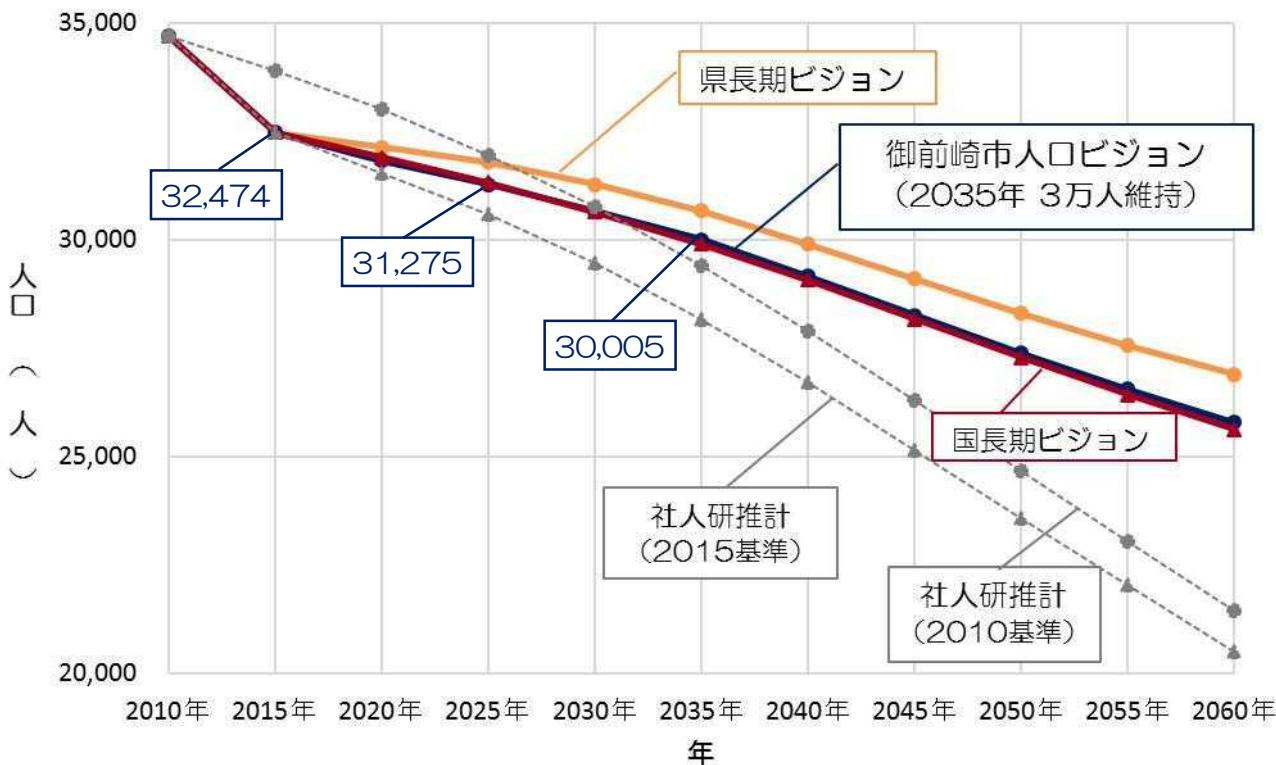
第2章 将来の人口と出生率の目標

将来都市像「子どもたちの 夢と希望があふれるまち 御前崎」を実現するため、本市における将来の人口と出生率の目標を次のように定めます。

《 御前崎市人口ビジョン 》

目標年次	平成 37(2025)年	平成 47(2035)年
人 口	31,275 人	30,005 人
出生率	1.8	2.07

図2 御前崎市人口の将来的な推移



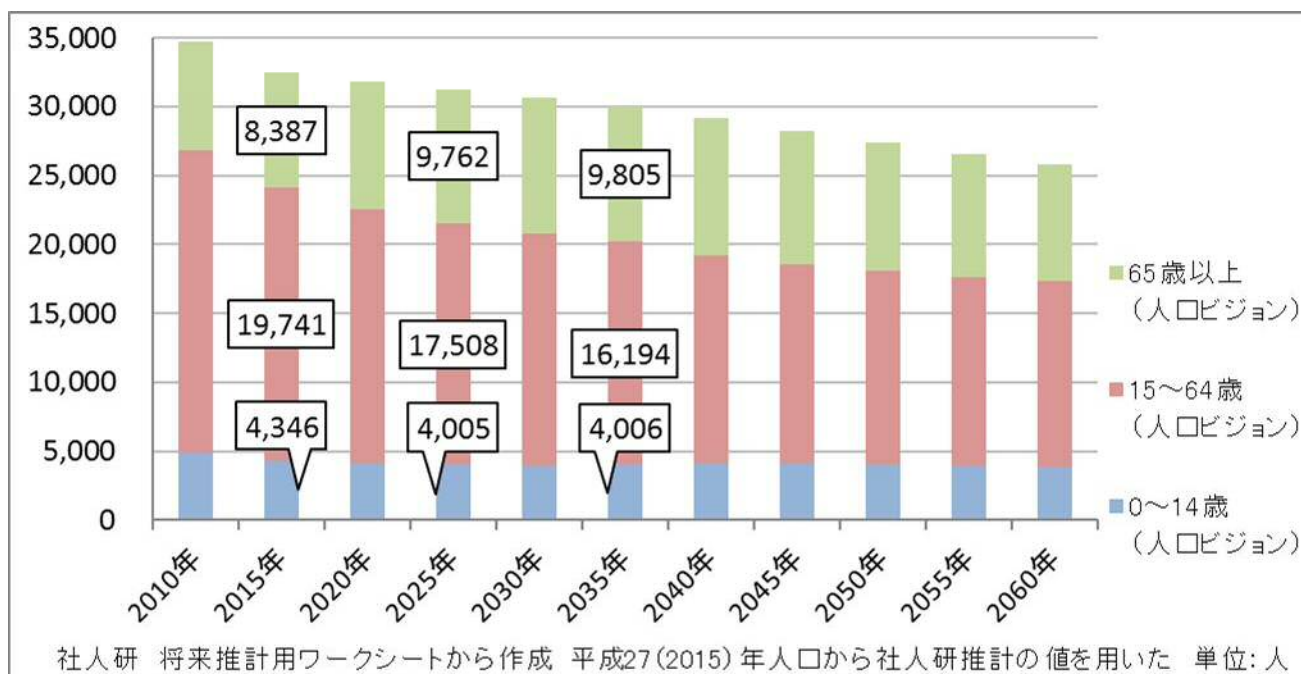
御前崎市人口ビジョンでは平成 47 (2035) 年時点の目標人口を 3 万 5 人と設定します。合計特殊出生率（以下、出生率）は徐々に回復し、平成 37 (2025) 年に

1.8、平成 47（2035）年に 2.07 を目指します。また、平成 37（2025）年には人口の社会移動の均衡を実現します。

なお、本章における人口の推計においては次の2点を想定しています（2010 年基準の社人研推計を除く）。

- ・ 国勢調査と住民基本台帳との隔たりを考慮し、平成 27（2015）年度の人口を 3 万 2,474 人としています。
- ・ 平成 32（2020）年には浜岡原子力発電所の工事完了を見込んで従業員 50 人が減少します。

図3 年齢3区分別人口の推移と将来推計（御前崎市人口ビジョン）

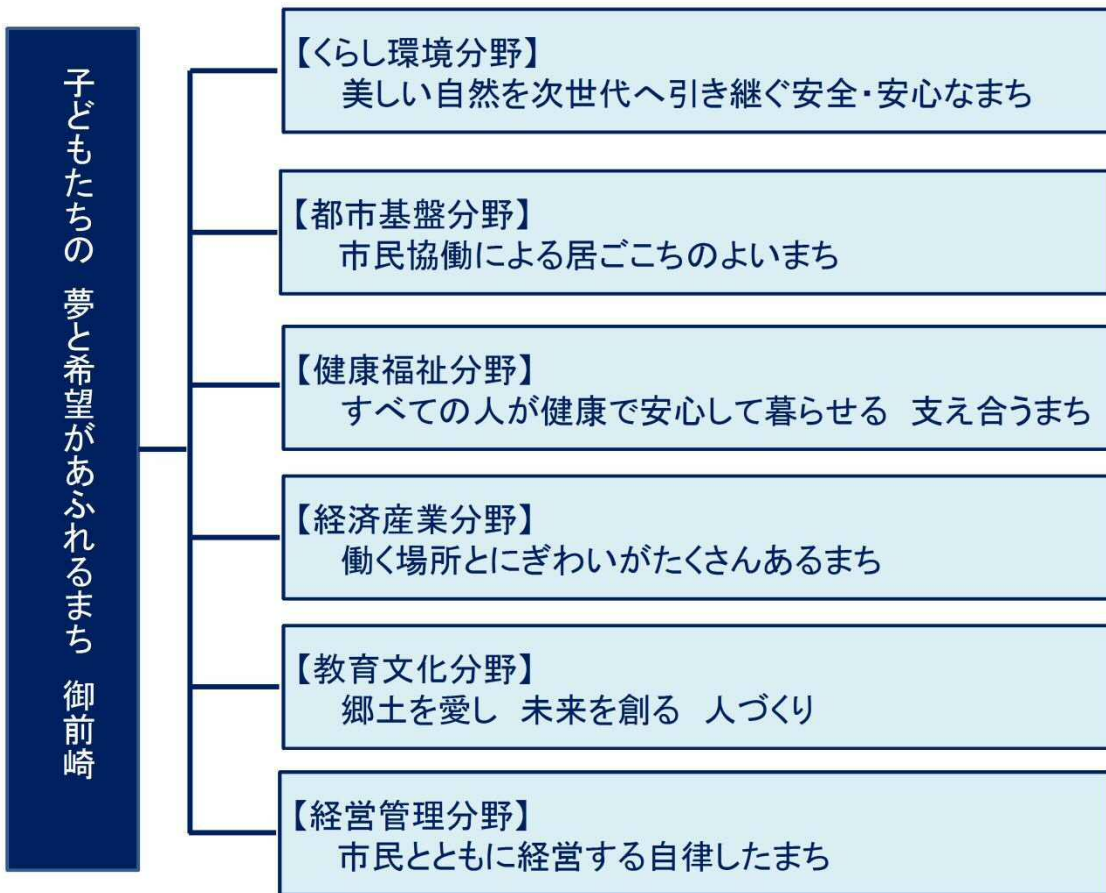


- ・ 社人研推計の場合、静岡県と同様、少子化と高齢化が進む中で人口構造が大きく変化します。平成 27（2015）年には、年少人口（0～14 歳）13.4%、生産年齢人口（15～64 歳）60.8%、老年人口（65 歳以上）25.8%でしたが、社人研の将来推計人口によると平成 37（2025）年の人口構成は年少人口 11.3%、生産年齢人口 56.8%、老年人口 31.9%となります。
- ・ 御前崎市人口ビジョンを実現した場合には、平成 37（2025）年の人口構成は年少人口 12.8%、生産年齢人口 56.0%、老年人口 31.2%となります。

第3章 将来都市像を実現するための分野別の基本目標

将来都市像「子どもたちの 夢と希望があふれるまち 御前崎」を実現するため、市政を6つの分野で検討し、それぞれの基本目標を次のように定めます。

図4 第2次御前崎市総合計画 分野別基本目標



各分野の基本目標は次のとおりです。

【くらし環境分野 基本目標】

美しい自然を次世代へ引き継ぐ安全・安心なまち

御前崎市は、北に牧之原台地から続く丘陵地帯、東に駿河湾・南に遠州灘を望む岬をはじめ、アカウミガメ・ホタルに代表される希少な生物など豊かな自然環境に恵まれています。このような豊かな自然環境の保全とともに、生活排水対策や公害対策などにより快適な生活環境の整備を積極的に進め、次の世代も環境の恵みを受けることができるよう環境整備を推進します。

また、南海トラフ巨大地震などの自然災害や突発災害から市民の生命・財産を守るため、地域防災計画に基づき、ハード・ソフト両面からの対策・強化と、子どもや高齢者のいわゆる交通弱者の交通事故撲滅や防犯意識の向上を図るため、地域や関係団体と連携しながら、安全で安心な魅力あるまちづくりを推進します。

【都市基盤分野 基本目標】

市民協働による居ごこちのよいまち

御前崎市の持つ素晴らしい景観や、豊かな自然環境と調和した、子どもからお年寄りまでくつろげる地域の憩いの場として、自然公園及び地域の公園の保全に努めます。

また、自然災害に強い安全・安心な都市構想を目指すとともに、道路・水路・家屋などの生活基盤の整備に取り組みます。

これらの都市基盤について、長寿命化計画による施設マネジメントに取り組むとともに、市民との協働による維持管理を推進します。

【健康福祉分野 基本目標】

すべての人が健康で安心して暮らせる 支え合うまち

全国的に進展している少子高齢化は本市においても同様で、今後ますます医療福祉分野へのニーズは多様化しながら高まっていくことが予測されています。

安心して出産・子育てができる環境整備と地域が一体となった介護予防・ケアシステムの確立が求められていることから、子どもからお年寄りまで互いに支え合い、安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めていきます。同時に市民の健康維持増進を図り、予防医療や医療体制の確立に努めていく必要があります。

また、近年増加している生活困窮者が、安心して社会参加できる支え合う環境づくりに取り組んでいきます。

【経済産業分野 基本目標】

働く場所とにぎわいがたくさんあるまち

御前崎市は全国的に有名な観光資源に恵まれ、御前崎といえば青い海や御前崎灯台をイメージするような、御前崎が持つ高いネームバリューを生かした観光振興が望まれます。

このようなことから、海洋に囲まれた水辺環境を生かしたマリンスポーツ体験や、農水産業などの体験型観光を推進し、交流人口の拡大を目指していきます。

なお、お茶・イチゴ・花き・牛肉など本市の豊富な特産物は、生産性・収益性の向上を目指すとともに、情報発信の強化を図りブランド力の向上を目指します。また、日本でも有数のカツオの水揚げ量を誇る漁業も観光漁業の視点を取り入れた取り組みを行います。このように、農業、漁業のブランド戦略を構築することで新規就農者や後継者の育成にもつなげていきます。

また、商工業では、今ある地域資源を組み合わせ新たな産業を生み出す取り組みと、既存産業の成長を支援し、起業を目指す起業家支援体制の充実を図るとともに、電源地域の優位性と物流の拠点である御前崎港を活用した企業誘致を進めます。

【教育文化分野 基本目標】

郷土を愛し 未来を創る 人づくり

御前崎市の豊かな自然や文化を市民が認識し、子どもから大人までともに学ぶことを通して郷土に誇りと愛着を持ち、これからも住み続けたい、という気持ちを育むとともに、御前崎のよりよい未来と、より豊かな自己の人生を切り拓いていく力を持った人を育てていきます。

そのために、園、学校、家庭、地域、行政が協働するスクラムプランで子どもの成長を支えるとともに、途切れない教育を目指し、保、幼、小、中、高がスクラムを組んで、子どもに知・徳・体の調和がとれた「生きる力」を育みます。また、世代を問わず、すべての人が御前崎の歴史や文化を知り、身近に感じることができるよう、誰もがいつでもどこでも学べる「学びの場や環境」を整えます。

【経営管理分野 基本目標】

市民とともに経営する自律したまち

少子高齢化が進み、人口の減少が予想される社会においては、限られた財源と人材を有効に利用できるよう未来を見据えた経営の視点が重要になります。そこで、市民や地域、まちづくり団体などとの協働を推進していきます。また、個人情報の適正管理などセキュリティにも配慮しながら情報化を推進し、事務の効率化・迅速化を図ることで市民の利便性向上を実現します。

次世代に豊かな御前崎市をつないでいくため、「ひと」「もの」「財源」「情報」を効率的・効果的に活用したまちをつくります。

第4章 都市構造と土地利用

御前崎市の土地利用は、将来都市像「子どもたちの 夢と希望があふれるまち 御前崎」を実現するため、次のようなゾーニングによりまちづくりを展開します。

少子高齢化の進展とともに人口減少の時代を迎え、御前崎市を取り巻く状況は大きく変わっていくことが予想されます。今後は、生活しやすさに焦点を絞り、都市構造の基本的方向性を次のように定め、効率的なまちづくりを目指します。

1. 市街地形成ゾーン

池新田地域を市街地形成ゾーンとします。

2. 居住環境整備ゾーン

高松地域、佐倉地域、白羽地域、御前崎地域を居住環境整備ゾーンとします。

3. 緑地環境保全ゾーン

比木地域、朝比奈地域、新野地域は緑地環境保全ゾーンとします。また、過疎化が進行する北部地域は、農地・山林と調和した住宅地の確保に取り組みます。

4. 海岸緑地環境保全ゾーン

美しい景観の残る海浜地域を海岸緑地環境保全ゾーンとします。また、海岸線や海岸部の保安林に指定されている緑地帯などの自然環境と景観を保全し、観光資源として活用していきます。

